

せんがわ

## まち三テ情報センター

一九七八・一・一五



### ● 設立趣意 ●

せんがわ（緑ヶ丘、仙川町、若葉町、入間町）の空間での

住む人（一万世帯二・五万人）と働き、学び、

買い物、遊びにくる人達による

新しき街・せんがわ（文化と福祉の結びついた街の生活）づくりへの試み

◇せんがわのまち、とにかく気に入っているという人が多い。

切通しを走る京王線の風情。夕方都心からもどって、改札を出るとホッとするのは駅前に大きな建物がなく、又広場の狭さが逆に郊外駅の情緒を残しているからだろうか。新宿まで20分余という便のよさ。道路幅の狭さが親密な雰囲気をつくり、呼びこみがとびかい活ばつな商店街。西側には斜面地の景観が楽しめ、緑のたたずまいが残る家並み。桐朋、白百合や中央電通などの学園、若者のまち。図書館、公民館、児童館、老人憩いの家などの公共施設も整備され、読書会などのサークル活動も活ばつとのこと。わざわざ座をはじめ、長善館の長持行列などいくつかのユニークな活動。ナショナルブランドで親しい企業の工場が3つもあ

るのも、このせんがわの水質が古来よかったからであり、故武者小路氏も水の湧く地を求めてせんがわに移り住んでこられたのだった。その屋敷跡は、いま実篤公園として、せんがわに開かれた。昔からめぐまれた風土と暮らしをもつ街。

◇でも、実際のところせんがわはいま「素敵な」まちになりえているかどうか？

あなたやわたしにとって、コレがせんがわの魅力であり、せんがわの生活と文化であると言いうるものがあるうか。何かとても、もったいない感じがする。商店街の盆おどりや、もちつき大会、秋の八幡・糟嶺神社の例祭も、せんがわの「お祭り」というにはさびしい、工夫がたりない。各学園祭や長善館祭なども、せんがわのまち全体でもっと楽しめるはずの催し物と思える。せんがわで、人やグループが、どんなことを考えたり、やりたりしているのか？ まちという場での人と人との出会いの魅力と、その関係の仕方のさまざまな可能性を、拓くための工夫と努力が欲しい。そして、その交流と協力のためには、お互いの活動内容やスケジュールを、まず知らせ合うことが大切となろう。せんがわでの地域・生活・文化情報の交流を活ばつ化するための具体的な道具が欲しい。

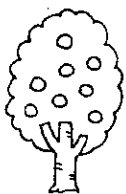
◇いま、せんがわのまちは、どこへいこうとしているのだろうか。

まちの活気といったものを考えてみる時、商業と商店街の果たす役割は大きい。いま商店街は次々に新装・改築がなされ、商店構成も変わりつつあ

る。成熟期を迎えつつあるせんがわ商圏はこの建築ラッシュの中で、新たな展開をなしうるであろうか。いま、何より必要なのは、せんがわのまちに對する総合的な眼くばりの中で、このまちの性格と魅力をつかみ、住み、働き、学び、買い物し、遊ぶ人達、みんなで共に追及しうる、まちづくりのヴィジョンと明確な意志をもつことではないだろうか。道にあふれる自転車や乳母車の波、ゆっくり立ち話してもできない人の流れ、ちよつと腰かけて話したいと思っても、道に開かれたスペースもベンチひとつない店々のつらなり、再考したいものだ。

◇いままで、私たちは遠くの方ばかり眺めていて、自分の足もとにころがっている、一番大切なものをみようとしませんでした。新聞、ラジオ、テレビ、雑誌、書物から日々、ぼう大な情報を手にすることが出来ますが、さて、せんがわや調布といった身近なことについての情報は皆無といえます。いま私たちは、このせんがわのまちとそこでの生活をいかなるかたちで織り上げ、そして次代の子どもや孫たちに伝え、ゆだねようとしているのか。

◇この世紀末を21世紀に向けて拓くために、日本の各地で、ひとは、むらは、まちは、いま己の「風と土と心」を問うことから、各々の歩みを始めている。さて、せんがわのまちでは。



## せんがわ

### まちニティ情報センター

#### ▼その目的

もっとも身近な生活空間であるとともに、多くの魅力と可能性を秘めた、このせんがわの地において、風土と人を大切に生かした「新しき街・せんがわ」づくりを目指す。そのためにまず、このまちに住む人たちの間の、意志と情報と活動の交流を活発化し、各人の知恵や工夫を結びつける場として、この情報センターを位置づける。

#### ▼その性格

せんがわにおける総合的な情報センターとして、せんがわの資料室、広報室、企画室の役割を担い、雑誌社やボランティアバンクやシンクタンクの機能を追及する。ここでセンターといっても、それは建物ではない。各個人、サークル、町内会・自治会・子供会、商店・企業、行政の間で、人と情報を結びつける働きであり、絶えずみんなに開かれた、無限にひろがるネットワークである。

#### ▼その活動

当面の活動テーマを次の様に考えている。(具体的な活動イメージと内容は省略)

- イ、新しき街・せんがわをまちのキャッチフレーズへ
- ロ、まちシンポジウム「新しき街・せんがわ 今日そして明日」の開催
- ハ、まちコミ誌「せんがわ・21」の刊行

- ニ、まちコミネットワーク「みんなの掲示板」システムの拡充整備
- ホ、スライド「せんがわ・風と土と心」の映像制作

ヘ、新しき街の「鎮守の杜」構想——実篤公園の生きた運営を考える

ト、まちコンサートや仙川寄席の開催

チ、せんがわボロ市や朝市の開催

リ、せんがわ哲学堂講座の開催(自由大学)

ヌ、せんがわデータバンクの設置

ル、せんがわ百科の作成(文芸年鑑も)

ヲ、個展はせんがわで開こう会

ワ、「実篤と新しき村」シンポジウムと美術展(春5月実篤生誕祭の頃)

カ、新しき街芸術祭(秋学園祭の頃)

コ、新しき村や街との交流と連帯など多様な多彩な諸活動を創拓する。

#### ▼その構成

・メンバー この活動の趣旨に賛同し、積極的な関心と参画の意志を持ち、チエとパワー(労力)をおしまない人。

・賛助会員 このセンターの目的と活動に賛同し、維持のために支援してくれる人。

・賛助会員会費：一口五〇〇〇円の随時カンパ

・維持読者 「せんがわ・21」の刊行維持のために支援してくれる人。

・維持読者会費：一口一〇〇〇円の随時カンパ  
・町の先生 プロとして、この活動への助言と協力をしてくれる人。このせんがわに住み、又

かわり意識を持つ人で、学びの原点にもどって、フレッシュな話をしてくれる人。年に一度は、基本的に手弁当で、講義や執筆をしてくれる人。

・事務局スタッフ センターの持続的な運営のために、若干名の専従、半専従のスタッフをおき、有給とする。

#### ▼その運営

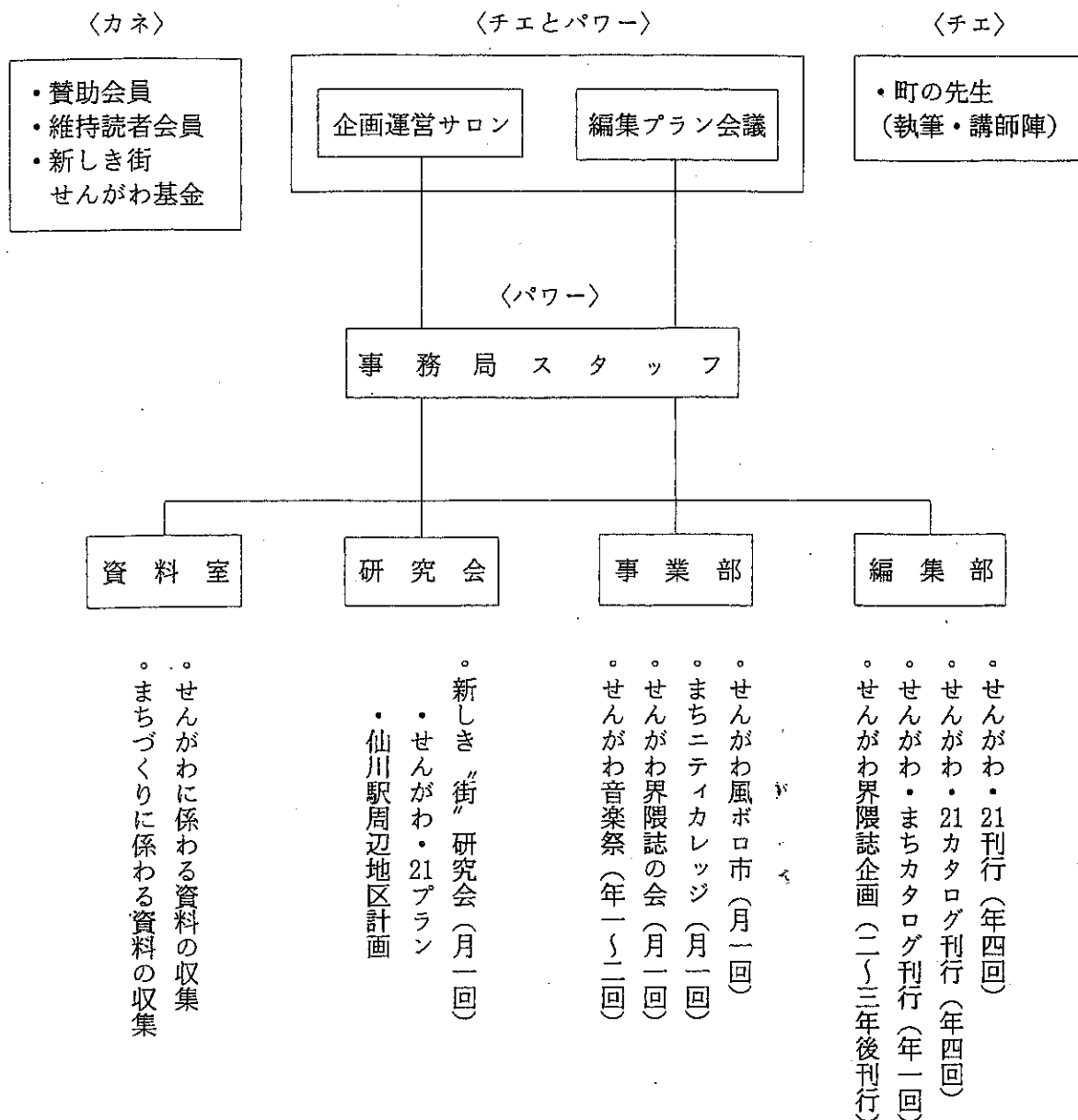
有志のボランティア活動が基本で、チエ・パワー・カネを持ち寄り、センターの維持運営にあたる。将来的には、コミュニティ財団の設立や公益信託の活用なども含めて、地域の新たな共同財としてのあり方を追及する。

・新しきまちせんがわ基金 地域の人たちの浄財をおおぎ、新しき街づくりへの諸活動の資金にあてる。



せんがわ  
まちニティ  
情報センター

▷その組織と活動（当面の活動内容）



■最近の活動から（92年6月〜11月）  
仙川まちづくり土曜サロン

- 第一回「駅周辺のまちづくり計画と仙川の将来」  
―激変の90年代、新しき街づくりに向けて―  
①仙川駅周辺地区計画の歩みとこれから  
伊藤恭二氏／パシフィック総合開発  
②風土・地政からみた仙川のまちの将来  
山下信男氏／NOMOS研究会
- 第二回「地区計画」と「仙川のまちづくり」  
―今、改めて地区計画を学ぶことから―  
①スライドで学ぶ「個性豊かなまちづくり」  
『地区計画―制度編』及び『同一事例編』  
②まちづくりにおける「計画」と「事業」  
山本雅之氏／地域社会計画センター
- 第三回「都市計画と街づくり戦略」  
加川浩氏／加川設計事務所
- 第四回「アート・あっと・ホームな街／仙川づくり」  
①世界の中の仙川、仙川の中の世界  
末吉保雄氏／桐朋学園大学  
②今、仙川のまちづくりに大切なこと  
山下信男氏／NOMOS研究会
- 第五回「増大する固定資産税・相続税等への対策」  
―土地の「保有」から「活用」に向けて―  
①平成4年度の税制改正と新土地税制のスタート  
菅原徹也氏／菅原税理事務所  
②資料にみる「新定期借地権」の制度と活用  
大脇正昭氏／地域科学研究会
- 第六回「夢を共有できる街になれば最高だ」  
―仙川は世界の中心になれるか―  
山岡義典氏／プランニング・コンサルタント